



CAR デバイス レポートの設定

CAR には、管理者、マネージャ、および個々のユーザの 3 つのレベルのユーザに対応したレポート機能があります。管理者だけがデバイス レポートを生成します。

デバイス レポートは、会議ブリッジ、ボイスメール サーバ、ゲートウェイなどの Cisco Unified CallManager 関連デバイスについて、負荷およびパフォーマンスを追跡します。

この章は次の内容で構成されています。

- [ゲートウェイ レポートの設定 \(P.7-2\)](#)
- [ルート プラン使用状況レポートの設定 \(P.7-9\)](#)
- [会議コールの詳細の設定 \(P.7-15\)](#)
- [会議ブリッジの使用状況レポートの設定 \(P.7-16\)](#)
- [ボイス メッセージングの使用状況レポートの設定 \(P.7-18\)](#)
- [関連トピック \(P.7-20\)](#)

ゲートウェイ レポートの設定

ゲートウェイの場合は、次のデバイス レポートを設定します。

- [ゲートウェイ詳細レポートの設定 \(P.7-2\)](#)
- [ゲートウェイ要約レポートの設定 \(P.7-4\)](#)
- [ゲートウェイ使用状況レポートの設定 \(P.7-6\)](#)

ゲートウェイ詳細レポートの設定

CAR 管理者だけがゲートウェイ詳細レポートを生成します。ゲートウェイ詳細レポートは、特定のゲートウェイの問題を追跡するために使用します。

この項では、選択したゲートウェイに関する詳細情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。



注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

手順

ステップ 1 [Device Reports] > [Gateway] > [Detail] を選択します。

[Gateway Detail] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 レポートに含めることができるゲートウェイのリストを [List of Gateways] ボックスに表示するには、次のいずれかの操作を行います。

- すべてのゲートウェイを [List of Gateways] ボックスに表示するには、ウィンドウの左側のコラムで [Gateway Types] をクリックします。
- 特定のゲートウェイ タイプのゲートウェイを [List of Gateways] ボックスに表示するには、ウィンドウの左側のコラムで [Gateway Types] の隣にあるアイコンをクリックします。ツリー構造が展開され、ゲートウェイ タイプのリストが表示されます。リストからゲートウェイ タイプを選択すると、[List of Gateways] ボックスにゲートウェイ名が表示されます。



(注) [List of Gateways] ボックスには、選択したゲートウェイ タイプに設定されたゲートウェイを最大 200 まで表示できます。

- 設定済みのルートパターン/ハントパイロットに関連付けられているすべてのゲートウェイを表示するには、ウィンドウの左側のコラムで [Route Patterns/Hunt Pilots] をクリックします。
- ゲートウェイ タイプではなく、特定のルート パターンを使用するゲートウェイを表示するには、ウィンドウの左側のコラムで [Route Patterns/Hunt Pilots] の隣にあるアイコンをクリックします。ツリー構造が展開され、ルート パターン/ハント リストのリストが表示されます。リストからルート パターン / ハント パイロットを選択すると、ゲートウェイ名が [List of Gateways] ボックスに表示されます。



(注) ウィンドウの左側のカラムで [Route Patterns/Hunt Pilots] ボックスにルート パターン/ハン ト リストの名前の一部を入力して、特定のルート パターン/ハン ト リストを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルート パターン/ハン ト リストを検索します。

ステップ 3 [List of Gateways] ボックスで、レポートに含めるゲートウェイを選択します。



(注) 1 度に最大 15 のゲートウェイに関するレポートを生成できます。

ステップ 4 選択されたゲートウェイを [Selected Gateways] リスト ボックスに移動するには、下矢印をクリックします。

選択したゲートウェイが [Selected Gateways] ボックスに表示されます。

ステップ 5 [Select Call Types] 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。表 7-1 で、コール タイプについて説明します。

表 7-1 コール タイプ別のゲートウェイの詳細

コール タイプ	説明
Local	Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
On Net	Cisco Unified CallManager クラスタの 1 つで発信され、別のクラスタで終端する発信クラスタ間コール
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
Tandem	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入り、さらに Cisco Unified CallManager ネットワークから発信されゲートウェイ経由で転送された発信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール

ステップ 6 [Select QoS] 領域で、レポートに含める音声品質カテゴリのチェックボックスをオンにします。P.4-6 の「QoS 値の定義」で設定するパラメータが、すべての音声品質カテゴリの基準になります。

表 7-2 ゲートウェイ詳細の音声品質

音声品質	説明
Good	これらのコールの QoS は、可能な範囲で最高の品質を示します。
Acceptable	これらのコールの QoS は、多少低下しているが、まだ許容範囲内に含まれます。
Fair	これらのコールの QoS は、低下しているが、まだ使用可能範囲内に含まれていることを示します。
Poor	これらのコールの QoS は、十分な品質とは言えません。
NA	これらのコールは、既定の QoS カテゴリのどの基準にも一致しません。

ステップ 7 コール情報を表示する期間の日付範囲を選択します。



(注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

ステップ 8 Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [CSV] を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [PDF] を選択します。

ステップ 9 [View Report] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

ステップ 10 レポートをメールで送信する場合は、[Send Report] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

追加情報

P.7-20 の「関連トピック」を参照してください。

ゲートウェイ要約レポートの設定

CAR 管理者だけがゲートウェイ要約レポートを生成します。このレポートは、ゲートウェイを経由したすべてのコールの要約を提供します。この情報は、ゲートウェイを通過するコールのトラフィックと QoS を監視するために使用できます。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、P.3-1 の「CAR システムの設定」を参照してください。



注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、ゲートウェイに関する要約情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [Device Reports] > [Gateway] > [Summary] を選択します。

[Gateway Summary] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Available Reports] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、**ステップ 6**に進みます。または、デフォルトの [Generate New Report] を使用して、**ステップ 3**に進みます。

ステップ 3 [Select Call Types] 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。**表 7-3** で、コール タイプについて説明します。



ヒント すべてのチェックボックスをオンにするには、[Select All] をクリックします。すべてのチェックボックスをオフにするには、[Clear All] をクリックします。

表 7-3 コール タイプ別のゲートウェイ要約

コール タイプ	説明
On Net	Cisco Unified CallManager クラスタの 1 つで発信され、別のクラスタで終端する発信クラスタ間コール
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終了する（ゲートウェイを使用しない）クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network（PSTN; 公衆電話交換網）を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
Tandem	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入り、さらに Cisco Unified CallManager ネットワークから発信されゲートウェイ経由で転送された発信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール

ステップ 4 [Generate New Report] を選択した場合は、レポートを生成する期間の日付範囲を選択します。

■ ゲートウェイ レポートの設定

- ステップ 5** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [CSV] を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [PDF] を選択します。
- ステップ 6** [View Report] ボタンをクリックします。
- レポートが表示されます。
- ステップ 7** レポートをメールで送信する場合は、[Send Report] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

追加情報

P.7-20 の「関連トピック」を参照してください。

ゲートウェイ使用状況レポートの設定

CAR 管理者だけがゲートウェイ使用状況レポートを生成します。このレポートは、所定の期間におけるゲートウェイの概算使用率を提示するもので、正確な使用状況ではありません。たとえば、システムが 11 ~ 12 時間目のゲートウェイ使用状況を計算するときは、(5 分間にゲートウェイを使用したコール数 * 100) / (任意の時刻にゲートウェイを使用することができる最大コール数) になります。ゲートウェイを使用することで任意の時刻に使用できる最大コール数は、CAR の [Gateway Configuration] ウィンドウで設定した、ゲートウェイの最大ポート数と等しくなります。1 時間全体を 5 分刻みで分割したサンプルごとに使用状況を計算し、その 1 時間における使用状況の最大値が、11 ~ 12 時間目の使用状況としてレポートに表示されます。同様に、1 日間の使用状況を取得する場合は、1 日間が各 5 分間のサンプルに分割され、使用状況の最大値が計算されます。1 日の中の時間単位で、または毎週または毎月の指定した日数単位で使用状況を調べることができます。レポートは選択されたゲートウェイごとに生成されます。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、P.3-1 の「CAR システムの設定」を参照してください。



注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、ゲートウェイ使用状況レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

手順

- ステップ 1** [Device Reports] > [Gateway] > [Utilization] を選択します。
- [Gateway Utilization] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [Generate Reports] フィールドで、表 7-4 の説明に従って期間を選択します。

表 7-4 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 8 で指定する期間の 24 時間期間内の各時間の累積結果を表示します。
Day of Week	ステップ 8 で指定する期間内でレポートの対象とする曜日を表示します。
Day of Month	ステップ 8 で指定する期間内でレポートの対象とするその月の日数を表示します。

ステップ 3 [Available Reports] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、ステップ 10 に進みます。または、デフォルトの [Generate New Report] を使用して、ステップ 4 に進みます。

ステップ 4 レポートに含めることができるゲートウェイのリストを [List of Gateways] ボックスに表示するには、次のいずれかの操作を行います。

- すべてのゲートウェイを [List of Gateways] ボックスに表示するには、ウィンドウの左側のカラムで [Gateway Types] をクリックします。
- 特定のゲートウェイ タイプのゲートウェイを [List of Gateways] ボックスに表示するには、ウィンドウの左側のカラムで [Gateway Types] の隣にあるアイコンをクリックします。ツリー構造が展開され、ゲートウェイ タイプのリストが表示されます。リストからゲートウェイ タイプを選択すると、[List of Gateways] ボックスにゲートウェイ名が表示されます。



(注) [List of Gateways] ボックスには、選択したゲートウェイ タイプに設定されたゲートウェイを最大 200 まで表示できます。

- 設定済みのルートパターン/ハントパイロットに関連付けられているすべてのゲートウェイを表示するには、ウィンドウの左側のカラムで [Route Patterns/Hunt Pilots] をクリックします。
- ゲートウェイ タイプではなく、特定のルートパターンを使用するゲートウェイを表示するには、ウィンドウの左側のカラムで [Route Patterns/Hunt Pilots] の隣にあるアイコンをクリックします。ツリー構造が展開され、ルートパターン/ハントリストのリストが表示されます。リストからルートパターン/ハントパイロットを選択すると、ゲートウェイ名が [List of Gateways] ボックスに表示されます。



(注) ウィンドウの左側のカラムで [Route Patterns/Hunt Pilots] ボックスにルートパターン/ハントリストの名前の一部を入力して、特定のルートパターン/ハントリストを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルートパターン/ハントリストを検索します。

ステップ 5 リストからゲートウェイ タイプを選択します。

ゲートウェイ名が [List of Gateways] ボックスに表示されます。



(注) [List of Gateways] ボックスには、選択したゲートウェイ タイプに設定されたゲートウェイを最大 200 まで表示できます。

■ ゲートウェイ レポートの設定

ステップ 6 [List of Gateways] ボックスで、レポートに含めるゲートウェイを選択します。



(注) 1 度に最大 15 のゲートウェイに関するレポートを生成できます。

ステップ 7 下矢印をクリックして、選択したゲートウェイを[Selected Gateways]リスト ボックスに移動します。

選択したゲートウェイが [Selected Gateways] ボックスに表示されます。

ステップ 8 [Generate New Report] を選択した場合は、コール情報を表示する期間の日付範囲を入力します。



(注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

ステップ 9 Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [CSV] を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [PDF] を選択します。

ステップ 10 [View Report] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

ステップ 11 レポートをメールで送信する場合は、[Send Report] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、[P.5-16](#) の「[レポートのメール送信](#)」で説明されている手順に従います。

追加情報

[P.7-20](#) の「[関連トピック](#)」を参照してください。

ルート プラン使用状況レポートの設定

ルート プランの場合は、次のデバイス レポートを設定します。

- ルートおよび回線グループの使用状況レポートの設定 (P.7-9)
- ルート/ハント リストの使用状況レポートの設定 (P.7-11)
- ルートパターン/ハントパイロットの使用状況レポートの設定 (P.7-13)

ルートおよび回線グループの使用状況レポートの設定

CAR 管理者だけがルートおよび回線グループの使用状況レポートを生成します。このレポートは、ルートおよび回線グループの最大使用率（ルートおよび回線グループに含まれているすべてのゲートウェイの累積使用状況）の概算を提示します。使用状況はゲートウェイの使用状況と同じ方法で計算されますが、この計算では、ルートグループに含まれているすべてのゲートウェイと、回線グループに含まれているすべての回線の累積使用状況が示されます。1 日の中の時間単位で、または毎週または毎月の指定した日数単位で使用状況を調べることができます。レポートは、選択したルートおよび回線グループごとに生成されます。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、P.3-1 の「CAR システムの設定」を参照してください。



注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、ルートおよび回線グループの使用状況レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [Device Reports] > [Route Plan] > [Route and Line Group Utilization] を選択します。

[Route and Line Group Utilization] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Generate Reports] フィールドで、表 7-5 の説明に従って期間を選択します。

表 7-5 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 8 で指定する期間の 24 時間期間内の各時間の累積結果を表示します。
Day of Week	ステップ 8 で指定する期間内でレポートの対象とする曜日を表示します。
Day of Month	ステップ 8 で指定する期間内でレポートの対象とするその月の日数を表示します。

■ ルート プラン使用状況レポートの設定

ステップ 3 [Available Reports] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、[ステップ 10](#)に進みます。または、デフォルトの [Generate New Report] を使用して、[ステップ 4](#)に進みます。

ステップ 4 特定のルート パターンを使用しているルートおよび回線グループのみを選択するには、ウィンドウの左側のカラムで [Route Patterns/Hunt Pilots] をクリックします。

ツリー構造が展開され、選択したルート パターン/ハント リストが表示されます。



(注) ウィンドウの左側のカラムで [Route Patterns/Hunt Pilots] ボックスにルート パターン/ハント リストの名前の一部を入力して、特定のルート パターン/ハント リストを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルート パターン/ハント リストを検索します。

ステップ 5 リストから、ルート パターン/ハント リストを選択します。

このルート パターン / ハント リストのルートおよび回線グループが、[List of Route/Line Groups] ボックスに表示されます。



(注) [List of Route/Line Groups] ボックスには、ルート グループが 200 個まで表示されます。

ステップ 6 [List of Route/Line Groups] ボックスで、レポートに含めるルート / 回線グループを選択します。



(注) 1 度に最大 15 のルート / 回線グループに関するレポートを生成できます。

ステップ 7 選択されたゲートウェイを [Selected Route/Line Groups] リスト ボックスに移動するには、下矢印をクリックします。

選択したルート / 回線グループが [Selected Route/Line Groups] ボックスに表示されます

ステップ 8 [Generate New Report] を選択した場合は、コール情報を表示する期間の日付範囲を入力します。



(注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

ステップ 9 Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [CSV] を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [PDF] を選択します。

ステップ 10 [View Report] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

ステップ 11 レポートをメールで送信する場合は、[Send Report] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、[P.5-16](#) の「[レポートのメール送信](#)」で説明されている手順に従います。

追加情報

P.7-20 の「関連トピック」を参照してください。

ルート/ハント リストの使用状況レポートの設定

CAR 管理者だけがルート/ハント リストの使用状況レポートを生成します。ルート/ハント リストの使用状況レポートは、所定の期間におけるルート/ハント リストの最大使用率（ルート/ハント リストに含まれているすべてのゲートウェイの累積使用状況）の概算を提示するもので、正確な使用状況ではありません。計算されるのは、ルート リストに含まれているすべてのゲートウェイ、およびハント リストに含まれているすべての回線の累積使用状況です。

1 日の中の時間単位で、または毎週または毎月の指定した日数単位で使用状況を調べることができます。レポートは、選択したルート/ハント リストごとに生成されます。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、P.3-8 の「システム スケジューラの設定」を参照してください。

**注意**

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、ルート/ハント リストの使用状況レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [Device Reports] > [Route Plan] > [Route/Hunt List Utilization] を選択します。

[Route/Hunt List Utilization] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Generate Report] フィールドで、表 7-6 の説明に従って期間を選択します。

表 7-6 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 8 で指定する期間の 24 時間期間内の各時間の累積結果を表示します。
Day of Week	ステップ 8 で指定する期間内でレポートの対象とする曜日を表示します。
Day of Month	ステップ 8 で指定する期間内でレポートの対象とするその月の日数を表示します。

ステップ 3 [Available Reports] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、ステップ 10 に進みます。または、デフォルトの [Generate New Report] を使用して、ステップ 4 に進みます。

■ ルート プラン使用状況レポートの設定

ステップ 4 レポートに含めるルート / ハント リストを選択するには、ウィンドウの左側のカラムで **[Route Patterns/Hunt Pilots]** をクリックします。ツリー構造が展開され、選択したルート パターン / ハント パイロットが表示されます。



(注) ウィンドウの左側のカラムで **[Route Patterns/Hunt Pilots]** ボックスにルート パターン / ハント リストの名前の一部を入力して、特定のルート パターン / ハント リストを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルート パターン / ハント リストを検索します。

ステップ 5 リストから、ルート / ハント リストを選択します。

ルート / ハント リストの名前が、**[List of Route/Hunt Lists]** ボックスに表示されます。



(注) **[List of Route/Hunt Lists]** ボックスには、ルート / ハント リストが 200 個まで表示されます。

ステップ 6 **[List of Route/Hunt Lists]** ボックスで、レポートに含めるルート / ハント リストを選択します。



(注) 1 度に最大 15 のルート / ハント リストに関するレポートを生成できます。

ステップ 7 選択されたルート / ハント リストを **[Selected Route/Hunt Lists]** ボックスに移動するには、下矢印をクリックします。

選択したルート / ハント リストが **[Selected Route/Hunt Lists]** ボックスに表示されます。

ステップ 8 **[Generate New Report]** を選択した場合は、コール情報を表示する期間の日付範囲を入力します。



(注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

ステップ 9 Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、**[Report Format]** 領域で **[CSV]** を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、**[Report Format]** 領域で **[PDF]** を選択します。

ステップ 10 **[View Report]** ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

ステップ 11 レポートをメールで送信する場合は、**[Send Report]** ボタンをクリックします。レポートを送信するには、[P.5-16 の「レポートのメール送信」](#) で説明されている手順に従います。

追加情報

[P.7-20 の「関連トピック」](#) を参照してください。

ルート パターン/ハント パイロットの使用状況レポートの設定

CAR 管理者だけがルート パターン/ハント パイロットの使用状況レポートを生成します。このレポートは、所定の期間におけるルート パターン/ハント パイロットの最大使用率（ルート パターン/ハント パイロットに含まれているすべてのゲートウェイの累積使用状況）の概算を提示するもので、正確な使用状況ではありません。計算されるのは、ルート パターンに含まれているすべてのゲートウェイ、およびハントパイロットに含まれているすべての回線の使用状況です。1 日の中の時間単位で、または毎週または毎月の指定した日数単位で使用状況を調べることができます。レポートは、選択したルート パターン/ハント パイロットごとに生成されます。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、[P.3-8 の「システム スケジューラの設定」](#)を参照してください。



注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、ルート パターン/ハント パイロットの使用状況レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [Device Reports] > [Route Plan] > [Route Pattern/Hunt Pilot Utilization] を選択します。

[Route Pattern/Hunt Pilot Utilization] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Generate Report] フィールドで、[表 7-7](#) の説明に従って期間を選択します。

表 7-7 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 8 で指定する期間の 24 時間期間内の各時間の累積結果を表示します。
Day of Week	ステップ 8 で指定する期間内でレポートの対象とする曜日を表示します。
Day of Month	ステップ 8 で指定する期間内でレポートの対象とするその月の日数を表示します。

ステップ 3 [Available Reports] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、[ステップ 10](#) に進みます。または、デフォルトの [Generate New Report] を使用して、[ステップ 4](#) に進みます。

ステップ 4 レポートに含めるルート パターン / ハント リストを選択するには、ウィンドウの左側のコラムで [Route Patterns/Hunt Pilots] をクリックします。

ツリー構造が展開され、選択したルート パターン/ハント リストが表示されます。



(注) ウィンドウの左側のコラムで [Route Patterns/Hunt Pilots] ボックスにルート パターン/ハン トリストの名前の一部を入力して、特定のルート パターン/ハン トリストを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルート パターン/ハン トリストを検索します。

ステップ 5 リストから、ルート パターン/ハン トパイロットを選択します。

ルート パターン/ハン トパイロットの名前が、[List of Route Patterns/Hunt Pilots] ボックスに表示さ れます。



(注) [List of Route Patterns/Hunt Pilots] ボックスには、ルート パターン/ハン トリストが 200 個 まで表示されます。

ステップ 6 [List of Route Patterns/Hunt Pilots] ボックスで、レポートに含めるルート パターン/ハン トリストを 選択します。



(注) 1 度に最大 15 のルート パターン/ハン トパイロットに関するレポートを生成できます。

ステップ 7 下矢印をクリックして、選択したルート パターン/ハン トパイロットを [Selected Route Patterns/Hunt Pilots] リスト ボックスに移動します。

選択したルート パターン/ハン トパイロットが [Selected Route Patterns/Hunt Pilots] ボックスに表 示されます。

ステップ 8 [Generate New Report] を選択した場合は、コール情報を表示する期間の日付範囲を入力します。



(注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

ステップ 9 Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領 域で [CSV] を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [PDF] を選択します。

ステップ 10 [View Report] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

ステップ 11 レポートをメールで送信する場合は、[Send Report] ボタンをクリックします。レポートを送信す るには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

追加情報

P.7-20 の「関連トピック」を参照してください。

会議コールの詳細の設定

CAR 管理者だけが会議コールの詳細レポートを生成します。会議コールの詳細レポートを使用すると、会議コールの詳細情報を生成および表示できます。



注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、会議コールの詳細レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [Device Reports] > [Conference Bridge] > [Call Details] を選択します。

[Conference Call Details] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Report Type] プルダウンメニューで、[Summary] または [Detail] のどちらかを選択します。

ステップ 3 [Available Reports] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、[ステップ 7](#)に進みます。または、デフォルトの [Generate New Report] を使用して、[ステップ 4](#)に進みます。

ステップ 4 [Select Conference Types] で、[表 7-8](#) の説明に従って、レポートに含める会議タイプのチェックボックスをオンにします。

表 7-8 Conference Calls Detail のフィールド

パラメータ	説明
Ad-Hoc	アドホック会議では、会議の司会者が、特定の参加者のみを会議に参加させることができます。
Meet-Me	Meet-Me 会議では、ユーザが会議にダイヤルインすることができます。

ステップ 5 [Generate New Report] を選択した場合は、会議コールの詳細を表示する期間の日付範囲を入力します。



(注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

ステップ 6 Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [CSV] を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [PDF] を選択します。

ステップ 7 [View Report] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

ステップ 8 レポートをメールで送信する場合は、[Send Report] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

追加情報

P.7-20 の「関連トピック」を参照してください。

会議ブリッジの使用状況レポートの設定

CAR 管理者だけが会議ブリッジの使用状況レポートを生成します。このレポートは、所定の期間における会議ブリッジの最大使用率（システム内のすべての会議ブリッジの累積使用状況）の概算を提示するもので、正確な使用状況ではありません。たとえば、システムが 11 ~ 12 時間目の会議ブリッジ使用状況を計算するときは、1 時間を 5 分刻みでサンプリングします。それぞれの 5 分間の使用状況は、(5 分間に会議ブリッジを使用したコール数 *100) / (任意の時刻に会議ブリッジが処理できる最大コール数) になります。1 時間全体を 5 分刻みで分割したサンプルごとに使用状況を計算し、その 1 時間における使用状況の最大値が、11 ~ 12 時間目の使用状況としてレポートに表示されます。1 日の中の時間単位で、または毎週または毎月の指定した日数単位で使用状況を調べることができます。レポートは、会議ブリッジごとに生成されます。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、P.3-8 の「システム スケジューラの設定」を参照してください。



注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、会議ブリッジ タイプごとの会議ブリッジの使用状況レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [Device Reports] > [Conference Bridge] > [Utilization] を選択します。

[Conference Bridge Utilization] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Generate Report] フィールドで、表 7-9 の説明に従って期間を選択します。

表 7-9 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 6 で指定する期間の 24 時間期間内の各時間の累積結果を表示します。
Day of Week	ステップ 6 で指定する期間内でレポートの対象とする曜日を表示します。
Day of Month	ステップ 6 で指定する期間内でレポートの対象とするその月の日数を表示します。

ステップ 3 [Available Reports] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、[ステップ 8](#)に進みます。または、デフォルトの [Generate New Report] を使用して、[ステップ 4](#)に進みます。

ステップ 4 左側のペインの [Conference Bridge Types] カラムから、使用状況レポートに含める会議ブリッジのタイプを選択します。

選択した特定のタイプの会議ブリッジが、[List of Devices] ボックスに表示されます。

ステップ 5 レポートに含める会議ブリッジをすべて選択したら、下矢印をクリックして、それらを [Selected Devices] ボックスに追加します。

ステップ 6 [Generate New Report] を選択した場合は、コール情報を表示する期間の日付範囲を入力します。



(注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

ステップ 7 Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [CSV] を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [PDF] を選択します。

ステップ 8 [View Report] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

ステップ 9 レポートをメールで送信する場合は、[Send Report] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、[P.5-16](#) の「[レポートのメール送信](#)」で説明されている手順に従います。

追加情報

[P.7-20](#) の「[関連トピック](#)」を参照してください。

ボイス メッセージングの使用状況レポートの設定

CAR 管理者だけがボイス メッセージングの使用状況レポートを生成します。このレポートは、所定の期間におけるボイス メッセージング デバイスの最大使用率の概算を提示するもので、正確な使用状況ではありません。たとえば、システムが 11 ~ 12 時間目のボイス メッセージング デバイス使用状況を計算するときは、1 時間を 5 分刻みでサンプリングします。それぞれの 5 分間の使用状況は、(5 分間にボイス メッセージング デバイスを使用したコール数 *100) / (任意の時刻にボイス メッセージング デバイスが処理できる最大コール数) になります。1 時間全体を 5 分刻みで分割したサンプルごとに使用状況を計算し、その 1 時間における使用状況の最大値が、11 ~ 12 時間目の使用状況としてレポートに表示されます。同様に、1 日間の使用状況を取得する場合は、1 日間で各 5 分間のサンプルに分割され、使用状況の最大値が計算されます。1 日の中の時間単位で、または毎週または毎月の指定した日数単位で使用状況を調べることができます。レポートは、ボイス メッセージング サーバごとに生成されます。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、P.3-8 の「システム スケジューラの設定」を参照してください。



(注)

CAR のボイス メッセージングの使用状況レポートでサポートしているのは、Cisco uOne、Unity、および Octel ボイスメール ゲートウェイのみです。



注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、ボイス メッセージングの使用状況レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [Device Reports] > [Voice Messaging] > [Utilization] を選択します。

[Voice Messaging Utilization] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Generate Report] フィールドで、表 7-10 の説明に従って期間を選択します。

表 7-10 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 12 で指定する期間の 24 時間期間内の各時間の累積結果を表示します。
Day of Week	ステップ 12 で指定する期間内でレポートの対象とする曜日を表示します。
Day of Month	ステップ 12 で指定する期間内でレポートの対象とするその月の日数を表示します。

ステップ 3 [Available Reports] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、ステップ 14 に進みます。または、デフォルトの [Generate New Report] を使用して、ステップ 4 に進みます。

ステップ 4 ボイス メッセージング DN を選択するには、左側のペインの **[Voice Messaging DN]** をクリックします。

設定済みのボイス メッセージング DN のリストが表示されます。

ステップ 5 DN のリストから、ボイス メッセージング DN を選択します。

選択した DN が **[List of DN/Ports]** リスト ボックスに表示されます。

ステップ 6 **[Select Voice Messaging DN/Ports]** で、下矢印をクリックします。

選択した DN が **[Selected DN/Ports]** リスト ボックスに表示されます。

ステップ 7 レポートに含める DN をすべて選択するまで、**ステップ 5** と **ステップ 6** を繰り返します。

ステップ 8 ボイス メッセージング ポートを選択するには、左側のペインの **[Voice Messaging Ports]** をクリックします。

設定済みのボイス メッセージング ポートのリストが表示されます。

ステップ 9 ポートのリストから、ボイス メッセージング ポートを選択します。

選択したポートが **[List of DN/Ports]** リスト ボックスに表示されます。

ステップ 10 **[Select Voice Messaging DN/Ports]** で、下矢印をクリックします。

選択したポートが **[Selected DN/Ports]** リスト ボックスに表示されます。

ステップ 11 レポートに含めるポートをすべて選択するまで、**ステップ 9** と **ステップ 10** を繰り返します。

ステップ 12 **[Generate New Report]** を選択した場合は、コール情報を表示する期間の日付範囲を入力します。



(注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

ステップ 13 Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、**[Report Format]** 領域で **[CSV]** を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、**[Report Format]** 領域で **[PDF]** を選択します。

ステップ 14 **[View Report]** ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

ステップ 15 レポートをメールで送信する場合は、**[Send Report]** ボタンをクリックします。レポートを送信するには、**P.5-16** の「**レポートのメール送信**」で説明されている手順に従います。

追加情報

P.7-20 の「**関連トピック**」を参照してください。

関連トピック

- [ボイス メッセージング使用状況レポートの結果 \(P.10-20\)](#)
- [会議ブリッジ使用状況レポートの結果 \(P.10-20\)](#)
- [会議コール詳細レポートの結果 \(P.10-19\)](#)
- [ゲートウェイおよびルート使用状況レポートの結果 \(P.10-18\)](#)
- [ゲートウェイ詳細レポートの結果 \(P.10-17\)](#)